

## 第10回「設楽ダム連続公開講座」運営チーム会議 会議録

開催日：平成25年1月18日（金）

場 所：東三河県庁3階301会議室

（戸田土地水資源課長）

それでは、定刻になりましたので、只今から第10回設楽ダム連続公開講座運営チーム会議を開催させていただきます。それでは、会議の取り回しにつきましては、運営チーム会議のリーダーであります戸田先生にお願いします。よろしくをお願いします。

（戸田リーダー）

はい。みなさん、おはようございます。1月18日ですので、新年と言っても遅いかもかもしれませんが、今年もよろしくをお願いします。

それでは、早速、第10回になりますが、設楽ダム連続公開講座運営チーム会議を始めたいと思います。昨年の11月23日に第3回のセミナーが行われまして、それから、約1ヶ月半から2ヶ月弱が経過しました。第4回のセミナーが2月の11日になります。ということでもありますので、これまでのセミナーのまとめと次回、それ以降についての方向性について議論をしてみたいと思います。次第をご覧になっていただきますと、项目的にはたくさんあります。議題の1が「第9回の運営チーム会議の確認」、それから「第2回のセミナーのまとめ」、「第3回のセミナーのまとめ」、そして4以降がこれからのことになりますが、「第4回セミナーについて」及び「第5回のセミナーについて」ということになります。あとは時間がありましたら「その他」の項目で残ったこれからのことも、時間があれば議論したいと思います。配付資料については、資料のところをご覧になっていただくと、「第9回の運営チーム会議について」、これが議題の1と2に対応します。そして資料の2が「第2回のセミナーのまとめ」ということになります。資料の3が「第3回のセミナー」のまとめ、資料の4が「第4回のセミナーについて」、これは計画になります。そして資料の5が「第5回のセミナーについて」、やはりこれも今後行っていくセミナーの計画ということになります。

それでは、早速議題1から議論してみたいと思いますが、資料の1をご覧になってください。「第9回の運営チーム会議について」ということで確認事項であります。概ね4点、5点のことが議論されたということですが、1点目ですが、「第8回運営チーム会議の確認事項」ということで、これは流水の正常な機能の維持という観点をどう議論するかということでありました。これは第5回のセミナーの中に、河川環境の中で含めるかどうかということを確認したということです。それについては、後ろから二つ目のマルですね、「第5回のセミナーについて」ということで、第5回のセミナーについては、またもう一度出てまいります、ポツの二つ目になりますが、流水の正常な機能の維持については、第5回の内容としては持ち越しというのは、第5回では

対応できないということで、第6回のテーマの中で補足するということを検討しましょうということになっております。戻りまして、大きなマルの二つ目ですが、「第2回セミナーの振り返りシートに対する回答について」ということですが、これについて、振り返りシートは運営に関する回答をするということですが、運営チーム会議から全体の合意で回答する部分ということがございます。それ以外にも個人的に回答する時には記名するということになりますが、セミナーにおける質疑応答をどのように行うかということについて、会場からの質問については、質問シートで質問を提出した人とそれ以外、この方の質問をどうするかということでありました。それについては、テーマに沿ったもので質問シートを提出した人を優先するということでもあります。これについては、また後程出てまいります、資料の2ですね、資料の2が第2回セミナーの振り返りシートということになっておりますので、その2ページ目のところで前回議論された内容が、この第8回運営チーム会議以降、委員でメールにて再確認したものが記載されております。これについては、すでにホームページにアップされているということですが、資料1に戻りまして、「第4回セミナーについて」ということですが、これについては第4回セミナーの内容が発表されたということですが、これは設楽ダムへの投資と効果ということで、県財政とダム事業効果を考えるということになっております。2月11日、場所は名古屋市内、愛知大学名古屋キャンパス、講師は名古屋市立大学の森先生と法政大学の伊藤先生というふうなことが決定したということです。サイドイベントについては調整するというので、これは今日の議題の中に、議題4の中に盛り込まれております。内容については変更もあるということですが、これも議題の4でございます。右の方に行きまして、「第5回セミナーについて」ということですが、これは井上委員と富永委員がご担当で、ダムが河川環境に及ぼす影響、場所としては、東三河ということで新城市です。これも今日の議題の5ですね、その資料の中に入っておりますが、日時と場所が決定されております。それから講師ですね、それも決定されております。一番下、三つ目の黒ポツですが、講師については2名とし、日程の都合を確認した上で、メールで確認するということですが、その結果については今日の資料に入っているということですが、

以上で、第9回の運営チーム会議、これまでの流れというものを確認させていただきました。この点については、皆さんよろしいでしょうか。会場の皆さんもよろしいでしょうか。

特にご異議がないようですので、議題の1「第9回運営チーム会議の確認について」は以上とさせていただきます。

続きまして、議題の2になりますが、「第2回のとよがわ流域県民セミナーのまとめについて」ということですが、これについては、ご担当が富永委員と原田委員のお二人ですので、二人からご説明をお願いします。

(富永委員)

それでは、第2回とよがわ流域県民セミナーのまとめについてですが、先程、振り返りシートにつきましては、前回の運営チーム会議で空白の部分があったわけですが、その部分も埋めまして、また、いろいろとご指摘いただいた点を修正して、資料2のように、これもすでにアップされているということですが、ご確認ください。それから、質問シートにつきましては、まだ出せていなかったのですが、本日もまだ皆様にお示しできていません。中部地方整備局の久保様の講演につきましての質問につきましては、今委員の皆様には質問の回答案というものが配られています、まだちょっと精査中ということで、確定するまでは公表を控えたいということです。委員の皆様から何かご意見がありましたらいただきたいということにしておきまして、2月11日の次の運営チーム会議までには公表できるようにしたいと、ホームページに上げるようにしたいということでございます。その点ちょっと非常に遅れていますが、非常に内容が複雑でございますので、ご了承いただければと思います。

(原田委員)

すみません。今本先生の方もまだ届いておりませんので、大変申し訳ございません。遅れておまして。催促というか、強くなかなか催促してはいけないのかなど。でも、時間が経ってしまったので、頑張ってみます。

(戸田リーダー)

はい、第2回のセミナーのまとめについて、お二人の担当委員からご報告いただきましたが、その点について、委員の皆さんいかがでしょうか。何かご意見等ありますでしょうか。

振り返りシートについて、少し議論となった所だけ、資料の2ですね、ちょっと見ていただきたいと思います。資料の2の2ページ目については、会場からの質問についての取り扱いについてこのように記載されて、委員の合意ということで、アップをしておりますので、ちょっと私が読まさせていただきます。「会場からの質問は、講演会のテーマに沿った内容を、質問シート提出者を優先して、コーディネーターが指名するようにします。また、セミナーのテーマによって参加者の意見がより活発になる進行方法も随時検討してまいります。」というようなことでございます。この後の第9回運営チーム会議と第3回のセミナーが行われまして、そのような方法で行われたというふうに理解しております。振り返りシートについてはそのようなことですが、質問シートについて、各委員から質問、あるいはご意見等ございませんか。蔵治委員。

(蔵治委員)

第1回の質問シートの時と取り扱いを変えてもいいとは思いますが、前回も話があったと思いますが、第1回の際は、必ずしも全ての質問に回答を書かなくてもいい

いというか、セミナー当日に、すでにこなされた質問については、回答は議事録を見れば記載されているわけなので、二重に回答しなくてもいいのではないかとということもありました。今、手元に中部地方整備局さんの案がありますけど、とても一つ一つの質問に対して誠実に答えられているんだらうと思います。今本先生のものについても、別に今本先生が全て答えなければいけないということは少なくとも無い、極端な場合には、全てに対して答えませんということもあり得ると思うんです。そこまで講師には強要できないという話があったかと思しますので、それよりも、やっぱり時間が経ちすぎているので、例えば、国土交通省さんの回答はこれで公開していいと思いますし、今本先生もご本人の意思を確認していただいた上で、早めに公開というのがより良い方法だと思います。

(戸田リーダー)

はい、そうですね。時間がかなり経ってききましたのでそろそろ。国交省については2月の11日までにアップということで、やはりあの事業畑ということでどう回答するかということで、いろいろ気を遣われている部分もあるかというふうに思いますが、そのように対応したいと、すればどうかと思いますが。

今本先生についてもそうですね、あまり引っ張ってもちょっと厳しいと思いますので、そろそろということと、結論を出していただければというふうに思います。

各委員からいかがでしょうか、それについては。よろしいでしょうか。フロアの皆さん、いかがでしょうか。そのようなことで一定の時間を区切って、報告をしていくというふうにさせていただきたいというふうに思います。2月11日が第4回セミナーですけど、それまでには本件は終わるということでできればと思いますので、よろしく願います。それでは第2回のまとめについてはそのような結論を得ました。

続きまして、第3回のセミナーのまとめについてということですが、第3回は蔵治委員と原田委員のご担当でしたので、ご報告願います。

(蔵治委員)

はい、それじゃあ第3回セミナーの報告のことなんですけれども、お手元の資料にある資料3ということで、質問シートのまとめでございます。

それから参加された方の振り返りシートのこれはまとめということになるんですかね、資料3の参考資料という円グラフが付いてますけども、振り返りシートの提出についてっていうのが一枚目で、その次の二枚目以降は、これは参加者の分析ということになるのでしょうか。ですので、ちょっと母数が違っているので間違えないでいただきたいんですけど、振り返りシートを出した方は40人ということですね。参加者というのは136人ということだと・・・違う、ごめんなさい。第3回じゃ110人ですね、はい。この参加者の分析結果というのは第1回から第3回まで全部ということで、この円グラフについてはあとでちょっと事務局さんから説明していただくとして、質問シートにつ

いてはお手元にありますように、質問内容を講師の先生にまた投げ掛けさせていただいて、回答をいただきました。第3回の運営は基本的には質問シートを出された方に対して、できるだけ指名した本人に質問していただいたり、あと私の方で質問をまとめて講師に当日伺いましたので、かなりのものは当日回答されたと分類されていると思います。私の方で明らかに当日取り上げきれなかった質問がいくつか残っておりまして、それは一番最後の紙にセミナーで取り上げなかった質問シートという形で、こちらでピックアップしたんですけども、これについても鈴木先生から回答をいただいています。石戸さんについては、質問はあまり多くなかったんですけど、それに対して回答は無いということなので、これはもう石戸さんとして回答は載せないという意思表示だと思っております。私としては今お配りしたとおりのものをホームページに載せたらいいのではないかと判断しまして、もう既に全部載ってます。ということで全部載せさせていただいております。一方で振り返りシートがあるわけですけども、これは皆さんからいただいた振り返りシートは既に打っていただいておりますが、それに対して私個人あるいはチーム全体での回答を書くということが必要だと思いますけども、ちょっとその作業が現時点では終わっておりませんので、これは次回に持ち越しさせていただいて、次回までに私の方で原案を作って振り返りシートをこういう形で対応したいということ示させていただきたいと思っております。あと、原田さんの方から何か補足は、大丈夫ですか。はい。という状況でございます。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございました。

じゃあ続いて説明だけですね。事務局から説明いただいて、それから議論したいと思います。はい、お願いします。

(事務局)

それでは蔵治委員の方からご説明がありましたように、後ろの3枚、資料3の参考資料と付け足してあります3枚につきましては、一枚目は第3回のセミナーの振り返りシートを出された方を母数といたしました分析になります。こちらの方には、年齢とかそういうものの情報が記載されておりまして、分析の方、第7回か何かの時に分かるものはこういうもの出して欲しいという形でお話をいただいております。それからあと二枚ですね、参加者の方の第1回から順番に書かせていただいたもので、参加者の方は住所とお名前しかございませんので、分析はここまでという形で1回から順番にどのような方、どの地域の方が参加をしているかということをお私どもの方でデータを取らせていただいたものになります、以上でございます。

(戸田リーダー)

はい、確認をさせていただきます。内容についてざっと見ていただいて、興味深い所

があれば、各委員からご指摘いただいたらと思いますが。方向性としては、質問シートについては会場でその時に質問された内容についても、出てきたものについてはお答えいただいているということですね。それから、それ以外の取り上げられなかった質問についても、既に結論は出ているということでもあります。それについては、もう既にその時点でホームページにアップされております。それから、振り返りシートについては原案を作っていただいて、そして、それを委員に回覧をしたその結果が、2月11日、次回ですね。次回報告をいただくということにございます。その他、振り返りシートの提出数及び参加者、これは住まいの分析、地域の分析ですね。それから市町村の分析、どこから来られたのか。それから、年齢別の傾向、それから認知度、理解度。この理解度のところが重要かと思いますが、そのような形での分析が出ております。多分、これ今日初めてご覧いただくと思いますので、内容を含めて何かお気付きの点、あるいは今後への対応というのがございましたら、まずは各委員からご意見いただきたいと思いますが、第3回のセミナーについて、はい、どうぞ。

(井上委員)

この質問シートについてなんですけれども、1回目は講師の先生が回答されなかった質問は掲載してなかったんですけれども、3回の質問であれば問題ないですけども、2回の質問で今本先生が回答されなかったものについて、かなりちょっと批判的な、載せない方がいいと思うような質問もあったのかなと思うのですが、整合性も含めどういうふうに取り扱うか決めた方がいいと思います。

(戸田リーダー)

繰り返しになりますが、井上先生からの質問は、質問シート、これは振り返りシートも同じだったと思いますが、回答があるものと無いものというのが結果的には出てくるということですね。そのものについて回答の無いもの、質問部分だけでも含めてホームページにアップ、公開するかそうしないかということで、1回目は回答の無いものはその質問はホームページには公開しなかったということですね。それをどのような対応にするかということではありますが、いかがでしょうか。この二点。

統一を取るか、統一を取らないかということもこれも議論だというふうに思いますが、どなたかいかがですか、はい。

(原田委員)

空欄で出すのはちょっと忍びない感じがしますね。バランス良く答えがあったり無かったりであれば、答えがあったもののみ掲載というのでいいかなと思うんですけど、全部バラっと無いとなると、じゃああの質問はどこに行ったって言われちゃったら、質問された方が困るのかなと今ちょっと思いましたけど、蔵治先生のは空欄でしたけど、空欄のまま載せる感じでしょうか。そうするとちょっと。

(戸田リーダー)

今はこれがこのままアップされているということですね。第3回については、ということですね。

(蔵治委員)

はい。

(原田委員)

空欄のまま。

(蔵治委員)

はい、私の意見としては統一を取るということに限度があるのかなという気がしていて、基本的に毎回若干違うのと、だんだん進化しているということもあるということですね。それと、やっぱり質問シートも、特に私の第3回の時もあったかもしれませんが、第2回の時なんかはホッチキス止めした分厚い質問シートとかも出て来ているわけですが、そういうもし公平に全て載せるということになると、そういうのだけ排除するわけにはいかないとかいうような、そういう質問シートは駄目ですよというふうに冒頭に説明できていけばいいんですけども、その辺が曖昧でやってるところもあったので、私としては回答があったもののみ掲載しましたということでもいいのかもしいかなと思います。今本先生がまだどうのご判断なのか分からないですけども、国交省さんの方はほとんど全ての質問に関し詳細に答えるという姿勢でいらっしゃるんで、でも、そうは言っても講師に強制はできないし、結果としてバランスを欠くようなふうになるのはしょうがないし、だからといって質問だけ載せて回答空欄のものっていうのは、どうですかね、それは第2回をやっぱり担当した人の判断ということで最終的にはなるのかなっていう、歯切れの悪いご意見で申し訳ございません。

(戸田リーダー)

はい、どうぞ。

(富永委員)

一つも回答が無かったことになりましたら、これは回答できなかったというコメントしか載せられないということになりますよね。できなかったというのか、なぜしなかったのかとその辺はあるんですけど、何かコメントは必要かなと思います。

(井上委員)

多分、第1回の時にも講師の先生にお願いする時に、質問シートに回答してくださいということを含めてお願いしていないはずですので、講師の先生からの回答はいただけ

ませんでしたくらいで、講師の先生を責めるわけでは全然無いというスタンスでやらないと、引き受ける人がいなくなってしまうので。

(富永委員)

質問シートというシステムがあるということは言ってるはずなんですけども、それをお願いするというのが。

(戸田リーダー)

そうですね、これは講師に対するお願いの時のお願いの仕方にも関わると思うのですが、第1回の際は回答の無いものはアップしませんということで、第1回。

(井上委員)

第1回はそういうこと何も伝えてなかったんです。

(戸田リーダー)

あっ、そうじゃなかったですか？

(井上委員)

はい、質問シートがあることすら。

(戸田リーダー)

いやいや、講師に回答してもらう時に。

(井上委員)

あっ、講師に回答してもらう時には。

(戸田リーダー)

講師に回答してもらう時にはそのようにお願いをして、第1回の際はそういう前提で出てきたものをアップしたということですね。第2回の場合はあまりにも質問が多かったという側面もあるのですが、どうでしょうか。

(原田委員)

その旨伝えさせていただきます。お電話します。

70くらい質問、もっとあるか。凄いなあるので、そのまま送ってしまっているの、どうしたらいいかなと先生思われているかもしれないので。はい、すいません。



(戸田リーダー)

じゃあ、どうでしょうか。今のところの議論だと基本的に回答を、講師は回答できるところと回答できないところとありますね。これは内容の問題と労力の問題と両面からありますので、そこまでは言い切れないところがあります。それに対して回答の無いところをまずは全部アップしないというのが第一案です。第二案は全部アップするというのが第二案ですね。第三案はそれに対して何か委員が加えると。全部アップする場合は白紙にするのか、第二案の場合は富永先生の意見でいうとそれは回答がありませんでしたというような表記で書くかですね。

(小島政策顧問)

次の取り扱いのこともあるので、自分も講師をやるとこういうふうにと考えると、一つは質問事項について、内容的には、率直に言うと最初の方は金銭の問題があつたりしてですね、これは失礼じゃないかっていう、これは質問なのかっていうそのものもあり、しかしそういうものがこの勉強会に来ている人たちの品性の問題だとそのまま判断するのはホームページを見た人たちが判断すればいいと。これはどうかな、品があつてよろしいというのかはですね、ホームページを見た人が判断すればいいということで全部アップした方がいいのかもしれないし、いやこれはどうかねと、やっぱりやめた方がいいんじゃないかっていうのを我々が判断するか、それは担当した2人が判断をして載せないようにするのか、あるいはちょっとどうかなと思うけれども、それを見た愛知県の県民の方々、あるいはホームページは誰でも見られるから、日本のどこかの人達がですね、愛知県のセミナーに来ている人達がこんな質問しているのかというのは見ていただいた方がいいかもしれない。判断はそれぞれの見た人に判断してもらえばいいのだと。愛知県民はこの程度なのか、あるいは素晴らしい人達なのかというのはね、見てもらえばいいって言う。そういう我々が判断することはないのだという考え方もあり。でも、1回、2回、3回とこうして来てみると、段々そういうものは、無くなっていくのではないかと。それは小慣れてくるわけなので、そういう意味では、進化の過程でもあるというふうには思います。ちょっと、それをどうするのかというのが一つ。それから、いわゆる僕らが見てまともな質問というものについては、先生方は専門があつたりしますので、専門と専門外の事柄があります。役所の場合は組織でやっているの、組織にはいろんな専門家がいるからですね、答えられる範囲が広いわけですがけれども、講師の場合は、講師の専門領域ということでお願いをしている部分がありますから、その専門領域を大きく外れるようなものはそもそも答えられない。専門外で答えられないということでもいいのかなとは思いますが。もう一つは分量です。さすがに人には仕事の臨界というのがありますし、それから、お願いをする時に無定量化にお願いしているわけではないから、あまりにも量が多いと他の仕事に差し支えることもあるので、その専門、いわゆるまともなというふう思われるものは、講師の方々の専門性と仕事の分量でご判断いただくしかないと思います。それは、次はどうしようかなというところですが、講師の

方々に全部お送りして、そういうやり方で結構ですということで判断をする。問題は、答えられないというのは、専門の問題とそれから分量の問題と両方あるわけですけども、そのことが講師の方への批判になるということだと、ある意味ボランティア的に、例えば50万円の謝礼でお願いするとかですね、これを最優先でお願いしますとかですね、そういうお願いの仕方ではないので、そういう仕切りなんですよということを我々が受け止めて、講師の方にこういう条件でお願いをしているんですとはっきりしないといけないのかなと。例えば、僕は役所において、パブリックコメントなんかやると、出てきたものには全部書くというのが仕事なんで、仕事だからそういうルールのもとでパブコメの答えを書くということを、このセミナーで講師にお願いする場合には、出てくる質問にはなんでもいいからとにかく全部書くというルールにはなっていないと思います。役所の仕事じゃないんだから。ので、お願いをするルールを決めて依頼をしておけば、その責任はそういうルールの下でのものだというので明らかになるのではないのかなと。自分が講師を頼まれたら、どういう条件だと引き受けるのかと考えちゃうんですけども。いただいたものはそういうことかなと。あまりにも失礼なものは、そもそももらったって答える気にもならないと思うんですけども。講師の側からするとそういうことになるのかという気がしますがどうでしょうか。

(富永委員)

そういうことなんですけども、普通の質問もありますので。会場で答えているものがありますよね。逆に質問の中で答えたものを、「会場で答えました」ということぐらいは載せられるのかなと。それを議事録とかすれば。ある程度は答えているはずなんです。少なくとも、それぐらいは質問と回答は対応しましたと。それなら載せてもいいかなと思うんですけどね。

(原田委員)

そうですね。その書いたものを私も先生に送ればよかったかなと。先生も少しは気が楽かなと思ったんですけども。ちょっと反省しています。会場で答えた答えもそこに書いた方がいいですか。

(富永委員)

いや、質問シートとの対応だけでいいのかなと。何もないと。

(原田委員)

一言で大丈夫でしたら楽ですけども。「会場でお答えしました」というふうに運営委員の方から書くということでいいのでしょうか。それとも、答えた内容をもう1回書くというのは。

(富永委員)

それもまた大変ですよ。要約しないとたぶん書けないのかなと。

(原田委員)

専門性があるので、私を書いてもと悩みながらだったんですけども。

(富永委員)

もう質問の回答をいただくのは無理だという前提です。

(原田委員)

ええ。

(戸田リーダー)

ちょっと纏綿（てんめん）してきましたけれども。

(小島政策顧問)

会場で答えたものは誰が作業するかですよ。もし、一覧性が見られるように、この質問に対して会場で答えた。その内容はこれというように、議事録からポンポンと切り貼りして、特定して、分量多くなりますよね。つまり、書いて答えるというのは短く答えようとするんだけど、しゃべって答えていると量が多いんですよ。だけど、答えを勝手に要約してはいけないとなると、そこから切り取ってポンと貼る。とその要約が見られて、いちいち議事録を見なくてもいいということで、みる人にとっては便利なんです。ちょっと分量が多くなる。あるいは、それをベースにして送ってこれでいいですかとか要約されますかとか、というふうになりますと講師の方は楽ですよ。だから、その作業を質問に対して特定してやったらどうでしょうか。そうするとゼロではないし、作業は軽減されますよね。だいたいそういうことになるんですけども、作業は誰がするんだという問題が残るんですね。

(戸田リーダー)

あまりに多量の質問が出た場合にどうするかということではありますが、第3回はうまくまとまっているんですね。会場のものも、質問のものも。問題は第2回。第4回もどうでしょうか。想定となるといろんな問題が出てくる。そろそろ結論を出したいと思います。

(井上委員)

質問の内容、それから講師の先生方に対応いただけるかどうか、いろんな要素が絡んでくると思いますので、こうやってやるんだということを決めるのではなくて、その場、

その場、あるいはその回その回、やはりケースバイケースで対応していくしか、仕方がないのかなど。ただ、願する時には、質問シートというこういう制度がありますので、質問が出たものについてはお送りしますので、できる限り願しますというようなことを、これからの講師には願するということで、その後の対応については、その時々で変えていくことでいいのではと思っています。

(戸田リーダー)

質問が出てきた。それに対して、出た質問は全部アップされると言われるのと、全部出ませんと言われるのと、あるいはそれに対してなんとかと言われるのは、質問を送られた方にとっては、プレッシャーの度合いが大分変わってきますよね。その辺はどのように伝えますか。次回のこともありますので。そもそもそれも各委員にまかせますか。その時によって、問題も確実にそれによって違うというのも事実ですね。3回やってみて、ハッキリ差は出ていますが。特に回答者が誰であるか、講師が誰であるかによっても大きく変わってくると思いますけれども。いかがでしょうか。

(蔵治委員)

今いろんなものを見ているんですけども、例えば非常に個人的なことを書いていたり、非常に批判的だったり、あるいは膨大であったり、特殊なものは存在していますので、それは委員の責任で選んだものを載せるという判断はせざるを得ない。全て載せるというのは、無理ではないかというふうに思います。そもそもなぜホームページに載せるのかという理由を考えたら、全ての質問を載せるということが私どものやりたいことではなくて、ホームページを見た人がそれを読んで、どちらかという建設的な気持ちになるというか、そういう感想を持った人もいるんだとか、そういう振り返りのさらに振り返りと言いますか、そういう意味での情報を共有して、学んで理解を深めるということに資するから公開するものだと思いますので、全てを載せるのではなくて、委員の判断で有益と思われるものを載せておりますということは必要ではないかと思います。そうは言っても、ほとんど全て載せた方がいいと思うんですけども。講師の回答がないものについても、我々としては、それが載せたら有益と思うものについては載せればよいのではないかと思いますけども。それは、振り返りシートについても、ほとんど同じことが言えるんですね。振り返りシートについても、あまりにも批判的だとこの先の講座をやっていくのにプラスにならないことを載せてもですね、そもそもやっている趣旨とも矛盾しますので、我々がある程度、価値判断を持って判断しないとイケない。それは、最初は担当している二人の委員がある程度案を作って、このメンバーで合意して、これは載せないとかいうことを決めていかざるを得ないかなと思います。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。だいたいまとめると、講師の回答があるものは全部載せる

と。それから、回答のないものについては、排除条件として、非建設的であるというものがあればそれについては排除。排除というのはちょっとふさわしくないですが、記載の方には持っていないということですね。それから回答がないものについても、有益であるもの、あるいは富永先生からご指摘いただいたように、すでに答えたもの、答えのあるものについても記載をする。その記載内容をどのようにするかについては、それは担当の委員が判断をして、対応できるものであれば記載する。あまりに膨大であるとかできない場合もあるかと思しますので、それは担当の委員が判断するというようなことで。その全体像について、出たものについては、事務局の方でまず素案が作成されますから、質問については、これについてはやめましようとなったものについては、委員相互の間で了解をする。原案は担当委員が作るということであります。そのようなことで富永先生よろしいでしょうか。

(富永委員)

分かりました。質問についてもやっぱり議論が尽くされていない、問題だけが投げかけられたというのがありますので、こういう質問があったということは非常に重要なことだと思います。これは、私が判断して対応したいと思います。

(戸田リーダー)

よろしいでしょうか。それでは、この方向で対応するというにしたいと思います。それから、統計的な資料がありますが、よろしいでしょうか。

(原田委員)

前回の振り返りシートの提出数の認知度のところが、数字が書いていないところがありました。資料3参考資料の真ん中の認知度のところですか。

(小島政策顧問)

赤がなんですか。

(井上委員、蔵治委員)

「だいたい知っている」です。

(井上委員)

緑は「少しは知っている」です。

(小島政策顧問)

この「無回答」、「全く知らない」、「ほとんど知らない」はどれかな。

(戸田リーダー)

説明していただけますか。

(事務局)

0%というのを載せているのは、おかしいかもしれませんね。人数が「ほとんど知らない」と「全く知らない」はゼロなので。

(戸田リーダー)

では、内容をちょっと説明していただくと。誰が来てどのように思ったかというのは重要なことですから。形式もありますから。

(事務局)

すいません。認知度のところですね。人数として「ほとんど知らない」「全く知らない」というところが「0人」という形でございますので、グラフの方にパーセントというふうに載せてるのはちょっとおかしかったのかなというふうに思います。

(小島政策顧問)

分かりました。これね。

(事務局)

左上のところにならなくなったデータを持ってきておりますので、「よく知っている」が19人、「だいたい知っている」15人、「少しは知っている」というところが5人ということで、「ほとんど知らない」「全く知らない」は0人と。それから、「無回答」は1人という形になっておりますので、「全く知らない」「ほとんど知らない」は0%という形で、人数は0なものですから、パーセンテージではないという形で表現をさせていただいておりますけども。

(小島政策顧問)

分かりました。「よく知っている」が40分の19で47%、「だいたい知っている」が赤で、これは40分の15、緑が少し落ちて40分の5、こういうことですか。橙が無回答で40分の1。そういうことね。いや、書いてないから、分からなかったから。そういうことですね。

(事務局)

すいませんでした。

(小島政策顧問)

それからさっきちょっと言ったんですけど、資料の3のエリア別はせっかく色つけてるんだから、統一的につけてください。エリア別の参加者で、1回目は名古屋が空色になって、2回目は名古屋が赤色になって、3回目は名古屋が又空色になっているから、それぞれの地域は同じ色でないと、色を追って見るから同じようにしてください。

(事務局)

はい。失礼いたしました。

(戸田リーダー)

これはあれですか、参加者数は110名ですね。

(事務局)

110名で、そのうち、振り返りシートを提出していただいたのが40名です。

(戸田リーダー)

40ということですか。それで、30数パーセントの回収率ということですか。もうちょっと書いてもらうといいですね。これ難しいですかね。

他、これについてはよろしいでしょうか。内容的には4割弱、3割強と言いますか、4割弱の回答ですが、お越しになったのが、東三河が54%で、尾張33%ということですから、名古屋、横にいて名古屋24%、結構尾張からも来られていたということが状況かというふうに思います。年齢別に見ると、50代以上が75%ぐらいということになります。認知度でいうと、先ほどのとおり、「よく知っている」「知っている」という方が8割くらいのように見えます。そして、内容、理解度としては、「大変深まった」というのが15%、「かなり深まった」そして「深まった」ということですから、「深まった」という方が8割程度ということに読めます。内容的にはそういうことであると思います。ただ、60%くらいの、60数パーセントの方が回答しておられないということですから、それについては、次回、もうちょっと書いていただくように努力をしたいと思いますが。そのような結果でありました。第3回セミナーについてのまとめについてはよろしいでしょうか。それじゃ、それについてフロアからご意見あれば、どうぞ。すいません、マイクを。多分録音すると思いますから

(傍聴者)

2点お願いします。一つはですね、この円グラフがありますけども、円グラフがあるだけで、これを次に活かすということを考えていただかないと、意味がないと思うんですね。だから、この会はできるだけ沢山の人が参加していただきたいということが目的だったと思いますので、これを元にですね、例えば、この地域の人が非常に少ないけど

も、この地域の方へもう少しアピールが必要じゃないかとか、なんでここの地域は最初多かったけど減ってきちゃったのかな、とか、そういうふうなことを分析していただいでですね、ぜひ利用をしていただきたい。例えば、例をあげますとで、田原市というのがあるんですが、非常に参加者が少ないです。田原市は農業用水の関係で設楽ダムとは非常に関連が深いところなのに、参加者が第2回目のところを見ると、「1%」と書いてある。これ、名古屋でやったときですね。それから後、蒲郡でやったときでも、「2%」ですか。だからこういうところへのアピールが非常に少ないんじゃないかという反省が非常にあります。設楽町に関しては非常に多いんですが、設楽町も1回目2回目みえますと、3回目になると減っております。もう飽いちゃったのかなとこんな感じもします。だから、分析をしていただいて、次に活かさないという意味がないかと、これが一つ。それから二つめはですね、先ほど講師の先生の質問に対する回答の話が盛り上がりおりましたけれども、これに関してはですね、例えば、県の方がその前で説明をされたそれに対する質問であつたら、それは全部答えてもらわにゃ困りますが、講師の方がそういう立場で参加しているわけではないと思うんですね。たまたまその向きの専門家であるということに来ていただいて、お話をして、話題提供していただいたわけですから、それに対して全て答えろということが、まず私は無茶な発想ではないかなと一つ思います。それで質問があつてもそんなものは無視したって全然構わないと思いますし、ノーコメントがあつてもいいんじゃないかなと思います。それから質問も、講演の中身と直接関係無いものは、講師の方は答える必要が全然無いと思うんですね。その講演の中身の背景にあるところまで突ついたら、それは私的なことやいろいろなことも出てきてしまうと思いますので、それは私は止めて欲しいと思いますので、本日の講演の中身について、もうちょっとここを詳しく説明して欲しいとか、この点はなぜそういうこと言われたのかちょっともうちょっと説明して欲しいという質問なら分かりますが、あなたはどういう人でと、そういうことを質問して答えろという方が私は無茶苦茶だと思いますので、講師の方に対してもう少し神経を使っただけたらなとこの2点、お願いをいたします。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございます。適切なコメントでありました。はい、どうぞ、もうお一方。はい、お願いします。

(傍聴者)

3回は110名参加で、40名が質問シートに書いたということで報告されているんですけど、司会者の方はできるだけ多くの質問を要求しているみたいなんですけど、政策顧問の方は、そのなんちゅうかな、自由な範囲を狭くする方向性を示しているんですけど、もうそういう、さっきの右の方もなんか、質問者の質問外について取捨選択をして、制限するという考えみたいなんですけど、この会というのはどういう会なのかとい



うことが分からなくなりますよね。質問ということは分からないわけですよね。だから司会者はその質問内容についてコメントをつけて、なんちゅうかな、うまく答えればいいんじゃないかな。無視するとかそういう発想じゃなくて。あるいは、質問者に対する制限枠を設けるということは、僕はもう、設楽ダムについての方向性は県はもう決まっているわけでしょうか。方向性を持っていて、反対派の意見とかそんな意見はできるだけ排除していくという方向でもう会をまとめる腹づもりなんですか。その点がちょっと、まだ自由な公開討論の形を維持していくのか、その辺がよく分からないですが。

(戸田リーダー)

何点かのことを今おっしゃったと思いますが、この人数に対して振り返りシートを出してくださいというのは意見をより徴集するためになるべく多くの方に回答していただきたいということですね、一つは。そして、質問シートというのは講師に対する、講師の講演に対する質問を深めるということですので、講師がそれ以上のことは答えられませんのでその範囲でお答えをいただくという、このような趣旨でしたが。排除するとかそういうためにこれをやっているわけでは全くありません。理解を深めるという意味でやっております。その観点に立って、講師を選定しておりますので、その選定のプロセスも全部オープンでやっておりますから、ご意見をいただく。ただ、講師が回答できることは限界がありますので、そういう観点で専門家であり等々を選ばれる。機関的にお出になった、国土交通省としてお出になったような場合は、これは全部お答えになってもらう。そのケースバイケースということになります。そのような観点ですので、決して排除しようとかそういう意味ではありませんのでご理解をいただきたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。はい。そうですね、マイクを、はい。

(傍聴者)

ちょっと誤解を受けたみたいですが、県にとって国土交通省にとって都合のいい質問だけを取り上げるということを私は言っているわけではありません。できるだけ幅広くいろんな質問が出ていいと思います。ただ、講師の方に回答せよという場合には、その講師のその人格も含めて、その人が答えられることと現段階では答えられないなこともあると思いますので、そういったことは排除する必要があるだろうと。アルジェリアでなんか事件がありました。もっと早く情報を出せって言っても、官房長官は、現時点ではちょっと答えられません、ということがあろうと思うんですね。でも、最終的にはして欲しい、知らせて欲しいので。この辺も質問がたくさん出た場合に扱いは大変困ると思うんですが、例えば、このほか、これこれこれこれといったような質問もありましたってなことをちょっと付けといていただければ、それで分かるんじゃないかな、と思います。それは運営委員の裁量でいいんじゃないかな、と私は思いますけど。私決して国の回し者ではありませんので。ダム建設反対の副代表をやっております。

(戸田リーダー)

はい。委員からございますか。

(蔵治委員)

いろんなご指摘ありがとうございました。今ちょっと、質問シートと振り返りシートっていう2種類のシートがあるんですけども、その二つのシートがちょっと混同されたこともあるんですけど、先ほど40人の人が提出したというのは、振り返りシートの人数で、質問シートではないですね。これまで振り返りシートってみんな多分そうだと思いますけど、振り返りシートの中身っていうのは二つの部分に分かれていて、一つは、今回の講座のご感想ご意見というものと、もう一つは講座の運営についてのご意見というふうになっています。これについては、別に講師の方がどうかということにあまり気にされずに、好きなことを好きなように書いていただいて、たくさん出していきたいというのが私どもの気持ちですので、そこについては、賛成であろうが反対であろうが自由な討論というか、自由なご意見を書いていただいていいとも思います。そうなんですけれども、じゃあ、振り返りシートをいただいて、それを基本的に全部公開するかということについては、まだちょっと慎重に考えなきゃいけない問題なんですけども、ここではこのシート、今この手元にあるシートについては、「公開します」っていうふうに書いてあるということもあるので、原則としてこれは公開して、共有して、雑多な、いろんなもの、雑多なものを公開して共有するっていうことでフリーなディスカッションをやっていきたいと。それは、私どもが、今後講座をやっていく参考になるものはなるのではないかとこのように考えてますんで、そこら辺はちょっと誤解のないように。一応、質問と振り返りは別ものとして取り扱うということですので、よろしくお願ひしたいと思います。

(戸田リーダー)

はい。ありがとうございました。そのような取り扱いであります。長い時間でいろんな議論が積み重なっておられますので、委員の方は、あるいは毎回来られている方は積み重ねで理解されますが、そうでない場合がありますので、理解しにくいところはあると思います。そういう点では、質問していただければお答えをいたしますので、質問していただきたいというふうに思います。ではもう1点の、実際にこれをどう活かすのかというのは全くそのとおりでありますので、引き続き検討してですね、場所の問題もありますし、年代の問題もありますし、それから理解度と、それから来られる方と、ずっとそれ問題にしておりますけれども、今、詳細にこの場で一つ一つ議論をしていくことはできませんけれども、そういったことで、次への参考といたしたいと思います。では、この点についてはよろしいでしょうか。

では次の議題、第4回、これは次回ということになりますが、次回のセミナーについての議題に進みたいと思います。これは資料がございます。小島先生と私が担当であり

ますので、内容について資料4ですが、これは小島先生からよろしく願ひいたします。

(小島政策顧問)

はい。資料4です。とよがわ流域県民セミナーの第4回講座の計画案であります。テーマは「設楽ダムへの投資と効果～愛知県財政とダム事業効果を考える」ということで、まず日時ですけれども、2月11日祭日ですが、午後1時から4時半、場所は名古屋駅近くの愛知大学名古屋キャンパスということでございます。講師の方、お二人で、講演内容の所にまいります、一人は名古屋市立大学の森先生、もうお一方が法政大学の伊藤先生、このお二人でございます。今回はお金の話をしようということでございまして、まず愛知県にとってのダムと、そのお金がどういふふうになっているのか、あるいは回っているのかということについてお話をいただくのが一つ目です。愛知県財政の状況、それから設楽ダム関連投資と愛知県の財政状況、愛知県における地域間財政配分と東三河における大規模投資の可能性と。大きな公共事業でございますが、お金は天から降ってくるわけではありませぬので、財源をどうするということとの見合いで事業というのは語られるというわけがあります。自民党政府、内閣になってまた公共事業やら色々な景気対策が行われますけれども、つい先程までは、福祉のための財源をどうするのかと、福祉も財源との見合いですし、公共事業も財源との見合いということで、財政規律と福祉をどうするのか。公共事業と財政規律どうするのかというようなことは必ず議論になるわけですから、100%国のお金でやっていたかという場合には愛知県財政にはなんの関係もないということでもありますけれども、100%ではない事業については、愛知県財政の負担があります。その負担の基は県税の収入とこういふことになっていて、そういう構造をやっぱり理解をしておかなくてはいけないということでもちょっと勉強させていただきたいというのが、森先生ですね。

二つ目は、ダムそのものの効果とこういふことになるわけですが、その前提として、ダムの計画から建設、竣工までの手続きを俯瞰（ふかん）して、今どの段階にあるのかということをお話して触れた上でダムに係る費用、設楽ダムの現段階の費用対効果ということをお話していただいて、なるほどダムとお金というのはそういう関係にあるのかという勉強をして、続けて、次に続く河川環境や利水効果などの講義に繋げていくとこういふ趣旨でございます。説明は以上ですね。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。これは先回の運営チーム会議で提出したところからあまり変わっておりませんが、ちょっと補足しますと、次回のもは数字に関わる検討が多いです。それはデータの制限というのはどうしても出てまいりますので、データの制限の中で実際に今回のこのテーマで各先生方作業していただいております。この為をやっておりますので、書かれたところからその通りにならないというところがあります。それでアンダーラインを引いたようなところがちょっと変わっておりますので、そこだけ私から補足をさせていただきます。1点が、大きく変わったのが講演1のところでは財政構造ですが、時系列

というのは経年変化ということですが、そのデータを全部蓄積して分析していくことに限界が出てきたので、そういう時系列、時間の変化の中での分析は困難であるので、現時点でのデータに基づいた分析ということになりますということで、アンダーラインを引いておりましたが、先回は変化を追うということで、そういうトライをしていただいたんですが、やはり困難であるということで、少し変わってきたということが一つですね。まだ続いておられますので森先生、伊藤先生ともにアンダーライン引いておられますが、講演者の今後の分析によって小項目の変更の可能性があるということで、これは当然のことであると思えますけれども、そのようなことを追加させていただきます。

もう1点、サイドイベントですね。サイドイベントは前回持ち越しになっておりましたので、それは原田さんですね。

(原田委員)

はい。サイドイベントの方を新しくこちらのオレンジ色のチラシの方に少し書き加えさせていただきます。新しいものを作ってくださいましたけれども、サイドイベントは今回は食べ物ではなくて、国の重要無形文化財である三河万歳を演舞をしていただくことになりました。来ていただきますのは、三河から伝統芸能でありますこの万歳を見せていただくんですけども、お休みの時間30分使いまして、会場の位置も決めましたので、会場で皆さんアンケートを書いている場を上手くとりながら、ここで一踊りというか、やっていたいくことになるかと思えます。協力はNPOチームぐるぐるさんによって繋げていただいております。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。サイドイベントについてはそのようなことであります。後は小島先生どうしましょう。質問シート、振り返りシートって…。

(小島政策顧問)

さっき議論がありましたんですが、質問シート、振り返りシートをまた書いていただきます。それで先程議論した運用ですね。当日の運営をどうするか。これも質問の出方を見ながらですね、ちょっと判断をして扱っていきたいなと思えます。先程フロアから話があったんですけども、いわゆる演者に対する質問の品性の問題は、これは改善をされているので、4回目はあまり気にすることはないかなと、そういうふうになるだろうなというふうに私は考えております。問題は出てきた質問なんですけれども、かなりお金の話ということなので、質問自体は有益なんだろうなと思えますし、後は問題は講師の方々が専門と作業量ということで答えられる範囲は講師にお任せするしかないかな、しかし質問は載った方がいいかな、全部ね、というふうに、質問の質にもよりますけれども、そういう運営をした方がいいかなと今考えております。先程のフロアの方のお答えになると思いますが、項目が項目なのでそういう質問しか出てこないじゃないかなという気がしているの

で、それで閉めさせていただきたいなと思います。それから、この質問シート、振り返りシートからだとして例えば出席者の4割ぐらい書かれているんですが、例えばもっと若い人という振り返りシートにあるんですけども、データの的に捉まえないですよ。4割ぐらいのところですね。そこどうしますかね。というのがありますが、これはデータの限界、今のやり方だと振り返りシートでいろんなという…、そこまでは捉まえない。今のままだとそういうことですが、それは仕方ないですよという…。

(戸田リーダー)

できるだけ書いていただくように…。あつ、意見ですか。

(井上委員)

これは多分会場に来て振り返りシートを出してくださいと言われた時にこの自由記載欄を書かないと出せないようなことを考えられる方がいるかもしれないので、少なくとも上だけ書いて出してくださいというようなことを一言アナウンスしていただければ、もう少し提出者が増えるのではないかと思います。

(戸田リーダー)

全くそのとおりですね。下を書かないと意味がないと思うと。試験問題のようです。次回も全体司会原田さんですので、ソフトに、アナウンスをしていただければ。

(原田委員)

はい。

(蔵治委員)

もう一つの問題としては、やっぱりこれ実名を書けということを強調したということがあると思います。それで何の為にこのシートを集めるかによるんですが、単に理解が深まったかだけを聞きたいだけなんであれば、これは匿名でないと回答しづらいという話とセットなんで、その辺単純ではないということもちょっとご理解いただきたいんですけども。

(戸田リーダー)

折衷様を取るとすると、回答する質問あるいはホームページにアップするものについては名前書いてないと駄目ですよということで、無記名の場合は何書いていただいてもいいかもしれないけども、それについては次の回答等については行わないというのも一つだと思います。それについては少し担当、小島先生と私ですので、少しお任せをいただいて考えさせていただくというふうにさせていただきたいと思います。

第4回についてどうでしょうか。

(蔵治委員)

サイドイベントの事なんですけども、第3回のセミナーの振り返りシートの中にサイドイベントについての意見が幾つかございます。今日はそれを配付資料として準備できなくて申し訳ないんですけども、サイドイベントの団体さんがあって、それがセミナーの趣旨に合っているのかっていうような疑問点を出されている方がいらっしゃるんですね。ちょっとそのサイドイベントの位置付けとサイドイベントをやってる団体とこの我々チームとの関係みたいなのは、毎回違いがあるんじゃないかとは思いますが、一応確認はしておいた方がいいような気がするんですが、何かそのサイドイベントをやっている方々、イコール我々チームの意思っていうふうに誤解されているかもしれないので、そこら辺どうでしょうかね。そういう意見が出てますので。

(戸田リーダー)

サイドイベントの意図というのは、これは委員会で確認されるべき内容だと思うんですが、お願いしている趣旨は多分二つあると私は理解しているんですが、より多くの方がお越しをいただくという意味合いが一つだと思います。それは食べるという行動もそうだと思います。もう1点は、豊川流域全体を理解していただく、それは自然であり、文化であり、そういう内容に合致しているという、この2点だというふうに私は考えていたんですが、これについては、原田さんが大体ご担当いただいているので、そして担当していただいている団体と、担当していただいていると言うか、ご協力をいただいていると言う方が正しいと思いますが、そこについての位置付けをお話いただけますか。

(原田委員)

はい、そうですね。確かにサイドイベントというのが、もしかしたらもっと加わりたいよという一般の団体の方々がみえるかもしれないですね。それで、前々回のこれからアップする第2回目の振り返りシートの中にも、そのサイドイベントに関しての質問がありましたので、少し書き加えたのですが、その時は三河湾のことをテーマに告知したので、第2回目に来られた方が勘違いをして三河湾の幸ばかり出すのでは不平等ではないかという意見があったので、その時に伝わりきれてないなど、お米もあるし海の幸ばかりではなくて、田畑のものもその産品として出ますと。もしくはそのようなアイデアのある方は是非お力添えをくださいというようなコメントを返しています。今は本当に持ち出しで全て持ち出しで協力くださっているNPO法人ぐるぐるさんのおかげで、ものすごく助けられているわけなんです、だからちょっと甘えてしまっているくらいで、食べものの方々が私が集めて来いと言われても、私も土地のものではなくて、できなくて、そういったことでチームぐるぐるさんはネットワークがあるということをお願いをしていました。今回は食べ物ができないという会場の条件があったりして、文化を大事にということと伝統芸能である三河万歳ということになったわけです。本当にそう言われてもしようがないかなと思いましたが、ですから、やったださる方が見えたら全然お力添えをしてくださって構わ

ないというスタイルを見せたほうがいいのかなど思っていました。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございました。そのところはサイドイベントを行う際、多分感想を持たれる方はお越しになる方ですので、その時によく説明といいますかそれをご理解いただくということが一点と思いますし、その際に次回以降もしそういうことをご参加いただきたい場合は参加してくださいというのもあろうかと思えます。その他、サイドイベントについて何かございますか。

(蔵治委員)

確認したいことはやはりそのサイドイベントをやっていただく団体さんの方々は、団体それぞれの主張とかあるとは思いますが、それは私どもは先ほどリーダーが仰った二つの趣旨に合致していると判断してその団体を選定しましたと。それ以上でもそれ以下でもないの、別にサイドイベントの団体が何を主張しているかは、そのまま我々のチームの意見とか主張ではないということでもよろしいでしょうか。そこだけ確認しておいた方がいいかなと思ひまして。

(戸田リーダー)

はい、それはそのとおりですね。各団体はその目的でおやりになっているわけで、この流域セミナーが合致しているところは合致していますが、それ以外のところは当然ありますね。それはぶつかっているというわけではなくて、他のフィールドで活動されるということですので、当然そうだと思います。その点は議事録に明記していただいて、残していただいて、もし以降出てくればそういうことであるというふうにお答えをしたいと思ひます。

第4回については以上のようなことになりましたが、もしフロアから意見があれば。

(傍聴者)

伝統芸能と設楽ダム建設の推進か取り止めかに関係ないんですが伝統芸能というものも設楽ダム周辺で継承していくことを考えての紹介でしょうか。伝統芸能というのは後継者が全然いない状態で地元の人が芸能をやる人がいないんじゃないかと、そうすると東京とか都会からタレントさんを招いてお祭りみたいなことをやって人を招くという行事をこれからの山間地域への人を育つのを指南するそういう考えでしょうか。

(原田委員)

今おっしゃった中に全部答えがあると思ひます。伝統がなく誰か東京から呼ぶとか、もうそれはいいことなのかどうかというのは皆様のご判断なんです、私個人として表現したいのは地元で根ざしているものを継承したいという思ひなので、そういういいもの、

伝統で残っているものをきちっとお見せする場になれば社会貢献度が高いのではないかなと思います。私たちこの地域に持っているそういった素晴らしいものがあるので、そういったものを見ていただく、そして地元をもう一回愛して考えてもらうそういう場になればいいのかなと思ってますので、本当におっしゃったようにそういった廃れて行っている伝統芸能、伝統芸能が廃れていってるというのは皆さん感じていらっしゃることであれば、ますます重要無形文化財になっているものなので、もっともっと皆で愛して助け合っていたらなという思いです。

(戸田リーダー)

とよがわ流域県民セミナーということで、これは初めの方の議論だったわけですが、流域全体を捉えると。ダムがありますけども流域全体を捉えるという観点ですので、文化というのも非常に重要なポイントとして扱うといいますか、テーマで挙がっているということでもあります。

(傍聴者)

本来の趣旨はダムを建設するか建設しないかですよね。建設する建設しないと決まることによって流域や伝統芸能が発展するという期待があるのですか。何らかの決定がされると周辺東三河に伝統芸能が復活するという確かなものがあるのですか。私は全然ないと思いますが。

(戸田リーダー)

そういう意味ではありませんので。流域全体を理解していく中で、このダムに関するいろんな問題を理解していくということで、これであるなしを議論する決定するということではこの場はありませんので、理解を深めていく。そのために流域全体を、その中で文化のことも、これはサイドイベントとしてやっています。講演として文化をやっているわけではないので、サイドイベントとしてやっているとご理解をいただければと思います。

(傍聴者)

第4回の講座の内容ですけども、費用対効果ということが話題になると思います。どれくらいお金が掛かるかというのは出てくると思うのですが、効果ですね、効果と言うときにマイナス効果というのを計算に入れる必要があるのではないかなと私は思うのです。

この前もそこに見える副本部長さんの鈴木さんと少しお話をして、ダムができれば洪水が防げるんだと、もしダムが無かったらこれだけ被害が出るかもしれないのでどちらがどうかというのは比較できると思います、でもマイナス効果ですね。例えば三河湾への影響、六条潟が駄目になると、三河の漁業が全部駄目になってしまうと、そういうときにマイナスの効果というものがダムに有るんですね。そういうものをどうやって計算していくかは、鈴木さんはそんなのは計算できんと言われましたが、計算できんから放っとく



のではなくて、そののところはどこかでマイナス効果を、例えば三河湾の話をするれば、水質が悪くなるという話もあるでしょう、自然環境が破壊されるということもあるでしょう。もう一個言えば、私は危険度が増すということ、ダムので堰堤の辺が非常に危ないのでこんなもん造ったら川下の人は夜も落ち着いて眠れなくなると思っています。新城の辺までの人がおちおち寝ておれなくなるので、川のそばから離れる必要があると思います。それくらい非常に危険な場所にダム建設が計画されている。だからマイナス効果についてもどこかでチラッとでも触れて欲しいなと思います。私は質問をしようと思っけていますけども、質問と答えぐらいではなくて、講演の中でどっかで触れていただけたらありがたいなと思っけています。

(戸田リーダー)

これは伊藤先生の講演の範疇だと思いますが、小島先生お願いします。

(小島政策顧問)

伊藤先生に伝えますということが答えですね。それから河川工事の場合にアセスメントって普通やっけているはずですから、事柄としてはプラスの効果とマイナスの効果を考え、プラス効果マイナス効果をどの範囲まで考えるかということが考えられるのですが、しかし多分問題はそれを費用で計算するということにはいろいろな方法があるんだらうと思っけています。いわゆる環境の費用あるいは防災の費用、漁場に対する影響の費用、この影響というものを金銭換算するときにはそれぞれの手法があるので、あるいは人によって違っけて言うべきかそこまでができるかどうかは分かりませんですけども、プラス効果マイナス効果を考えた評価というのは通常しますのですそこまでは行くと思っけていますが、費用にこれを換換していくということができるかどうかは分からないと思っけています。

(戸田リーダー)

はい。せっかくですから各委員から何か知見があれば、富永先生、土木事業の総合評価で事業そのものの投資効果とはB/C(費用便益比)だと思っけてのですが、もう少し大きく、多分この講座全体がそういうことなんだらうと思っけてのですが。

(富永委員)

そういっけてた影響というのはなかなか評価できないところであっけて、それを評価するのは難しいと、結局評価しているのは影響がほとんど無いということですね。それであれば当然何も発生しない、三河湾への影響は発生してこないということですね。それは影響の仕方によるということなんですけども、そこまでしか言えませんね。

(戸田リーダー)

はい。他の委員から。

まず、1点目は小島先生がおっしゃられた次回の講座に関して申しますと伊藤先生にお伝えする。後はこの講座自体がその質問等々の内容があって次がまた考えられるという構造になっているということが2点目と。それから今おっしゃったことは大変包括的なことで、我々がやっていること全体がそういうことなんだろうと思いますが。

(傍聴者)

計算できないから無視するんじゃないくて。

(戸田リーダー)

そういうことはないですね。おっしゃるとおりだと思います。定性的でもそれはあるだろうということですね。はい、ありがとうございます。

以上で第4回セミナーについては終わらせていただいて、次の題に移りたいと思います。

第5回セミナーについて、これは富永先生と井上先生のご担当ですのでよろしく願います。

(富永先生)

第5回講座ですが、前回内容についてちょっとお示ししましたが、日時、場所、講師が固まりましたのでお知らせします。まずテーマは「ダムが河川環境に及ぼす影響」ということで内容につきましてはそこにあるようなものです。日時は2013年5月18日土曜日に決定しました。場所が新城文化会館2階小ホールとなりました。時間が13時から16時半。内容といたしまして、講演の1は「ダムと豊川の水生生物生息環境について」これは私が付けた仮の題でまだ講師からいただいたものではありません。講師は森誠一氏。岐阜経済大学教授、岐阜経済大学地域連携推進センター長に願います。講師の2番目は「ダムと土砂環境について」これも仮題ですが、講師は角哲也氏。京都大学防災研究所水資源環境研究センター教授、このお二人に願います。ということでダムが河川環境に及ぼす影響について、水生生物の生息環境という面からと川の土砂輸送、土砂環境ですね、ダムによってどういう影響が出るのかといったことをお話ししていただければと思います。

(戸田リーダー)

井上先生、よろしいですか。はい、それでは他の委員から何かよろしいですか。はい、どうぞ。

(原田委員)

ちょっと先に。またチラシの方を作りますので、お写真と先生方のプロフィールを2月11日までに原田の方まで送ってください。よろしく願います。

(戸田リーダー)

サイドイベントは決めていないが、これは第4回の時もそうだったんですね。最初に配った時は決まっていなくて、その後差替えて最終のものは後になるということです。とにかく来られた方に、次回はこうですとお知らせするのが趣旨であるという理解であります。よろしいでしょうか。

第5回について、委員の皆さんから特にないようですが、フロアの皆さんから何かご意見があれば。

(傍聴者)

委員の方だけではなくて、事務局の方にも質問なんですけど、第5回の収容人員とか利便性なんかを教えてください。というのは、この辺からぼちぼち女性の方と割合と年齢の低い方を呼びたいと思うので、1コイン託児をやりたいと思っています。

(事務局)

会場は新城文化会館の小ホールになります。収容人員は400人になります。文化会館のホームページで豊橋駅から約1時間弱くらい、JRで40分くらいで、そこから歩いて10分くらいであったと記憶しています。

(戸田リーダー)

今回は河川の環境ということでしたので、それが関連する場所ということで、なるべく中山間というところを選んだということでもあります。

(原田委員)

託児のことも、そうですね、山本さんから言っていたように、ここでできたらと思いますので、1コイン託児をご協力いただけるということであれば、女性の方々に参加していただきたいので。

(事務局)

よろしいですか。12月の時に、各委員の方に、新城文化会館について、このようなことであると提出させていただきまして、託児を行うところは3階に和室があって、10畳の部屋が二つあるということで、襖を外せば20畳で使えるところがあるということでございます。利用料金は午後から借りると、料金が1部屋で900円くらいかかるということになっております。通常は茶室として使われるところですから、常時見張っている人がいないと遠慮して欲しいということです。ただ、今空いているかどうかは分かりません。

(原田委員)

お願いしますということでもいいですか。

(事務局)

どの名前で押さえるということになりますでしょうか。流域セミナーの名前ではなくて借りられる方のお名前になると思いますので。

(原田委員)

外部でやった方がいいということですか。

(事務局)

託児をやられるということなら、そこでやられる方のお名前で。空いていればその名前で行きますということなら、お手伝いさせていただけるかと思えますけれども。その方を教えていただければ、今空いているならば、そのところを一応利用申請をするというか形を取らせていただけるかと思えます。

(原田委員)

はい分かりました。担当者の方とご相談させていただいて、間に私が入って調整させていただきます。そうしますと、このチラシにも載せた方が有効だと思いますので、お母さん方が来れるかなと思いますので、1 コイン託児として担当する団体名を書くというような内容の体裁で準備していいですか。

(小島政策顧問)

今言ったのは事故時のことも考えて、誰がここを借りて押さえているのかという事も含めて普通考えるので、県の主催だと職員を配置したりとかですね、事故が起こらないようにとか、いろんな事を考えちゃうわけですよ。そうすると、あれもやって、これもやって。だから、そこを借りるのは誰で、さっき言った誰がそこに居るんですかとか、そういう話なので。そこを整理して、押さえて、その責任だということですから。便宜を図ってやっていくことだから。そうやって、はっきりして載せられたらいいんじゃないでしょうか。その問題だけですよね。

(戸田リーダー)

よろしいでしょうか、大体そういうことで。

(原田委員)

託児のことで少しいいですか。ここで募集をすると、受付というか、申し込み用紙には、県の参加申込書に「託児有り無し」みたいなことを付け加えることになると思うのですけ

ども、その窓口は申し込み先と統一してもいいですか。託児の申し込みも、いったん県の方でやっていただいてもいいですか。

(事務局)

その辺につきましては、後程相談させていただきます。

(戸田リーダー)

もう一方いらっしゃいますか。

(蔵治委員)

ちょっと意見を言うのが遅くなって申し訳ないんですけど。そのチラシを2月11日までに作るということになりますと、この資料5の開催計画案の内容に加えて、その講演二つ終わった後、何をするのかということに記載する必要があると思うのですが。その講演だけというご提案なのか、通常、講演が終わった後にディスカッションをするわけですね。そのディスカッションのタイトルとコーディネーターといったようなことを、ここである程度決めておかないとチラシができないのではないかと思ったんですけども。

(戸田リーダー)

おっしゃるとおりですね。それについて前回記載されてましたですか。じゃあ口頭でお願いします。

(富永委員)

コーディネイトは当然私と井上先生ということになります。ファシリテータとか司会は原田さんに頼むかどうかということですが。

(原田委員)

サイドイベントが入ったものを今日みなさんに、事前にお渡しするんです。

(戸田リーダー)

これにテーマとディスカッション、まずディスカッションがありますかというところからやらないといけませんね。

(富永委員)

それは当然あるという、この時間配分は多分同じを考えています。

(戸田リーダー)

テーマは。

(富永委員)

ここもテーマを付けるんですね。

(戸田リーダー)

概ねはダムが河川環境に及ぼす影響ということで。

(富永委員)

同じなんですね、分かりました。

(戸田リーダー)

コーディネーターは？

(富永委員)

当然、私と井上先生で。司会は原田さんに頼むかどうか、お願いしますか。じゃあお願いします。

(原田委員)

この書き方がいいかどうか分からないですけど。

(富永委員)

これを見本にしますから、メールで送ります。次回までに作ってなきゃいけないですね。

(戸田リーダー)

そういうことですね。

(原田委員)

このパターンを渡しますので書き換えだけで済みます。

(富永委員)

内容について少し書けるように。

(原田委員)

この文言でいいと思いました。これをこの枠の中に入れますね。

(富永委員)

この期限はどうなりますか。印刷というか、いつまでに作ればいいですか。

(原田委員)

2月11日に配布する場合は何時までに。

(事務局)

2月7日です。印刷のことを考えますと2月7日が最後になると思います。

(富永委員)

デザインする時間があるということなら、1月中で。

(原田委員)

ちなみにサイドイベントのアイデアが何かありましたら。食べ物とかがいいですかね、今度は。会場的にはどうなのかお聞きしておきましょう。

(事務局)

会場は絨毯張りですから、汁物の配布は不可ということは聞いております。

(原田委員)

ということは、前回蒲郡でやった時のように、外で。

(事務局)

外は多分大丈夫だと思います。

(原田委員)

踊り場のようなところも。

(事務局)

会場内は全て不可です。建物内は踊り場も含めて全て不可です。

(原田委員)

建物の中も駄目ということですね、今回は。

(事務局)

汁物の配布は不可と聞いております。床が全てカーペット張りのため、室内の配布は不可ですよというふうに聞いております。

(原田委員)

ということは、汁物でなければいいということですか。

(傍聴者)

移動販売車でいきますので、食べ物はオッケーです。メニューもしっかり計画をしています。サイドイベントは会場の外に、移動販売車を持っていきますので、メニューにいいアイデアがあったらお願いします。第1回目から第4回まで、ちょっと広報が弱いと思いまして、どちらかという私達おじさんとか、おじいさんが中心となってしまってます。ダメってとても寿命の長い事業なので、できればもっと年齢の低い層に来てもらいたくて、広報に一工夫できるといいなと思いつているんですが、何か事務方でいいアイデアがあったら教えてください。

(戸田リーダー)

それもずうっと考えてきたことだと思いますが、なかなかできなくて申し訳ないと思いますが。もう一方ご質問がありましたらお願いします。

(傍聴者)

関連して、僕は無知なので、1コイン託児というものは、幼いお子さんを持った女性たちのグループの名前ですか。それとも新城文化会館の特別な部屋があるわけですか。その女性たちが何名か集まって何をするわけですか。

(原田委員)

託児なんですけど、お母さん方にもこのセミナーに参加をしていただくためにはどうしたらいいかなというところで、では託児室を設けましょうということで。そのセミナーに参加を女性達にして欲しいので、子供さんを預かる団体さんが名乗りを上げてくださったということです。それを1コインですから、500円ですね、500円で3時間くらいの間、お子さんを責任をもって預かりますよという方々が今回手伝ってくれることになったので、どうしようということになりました。

(傍聴者)

その新城文化会館では、そういうお母さん方がたくさん参加するという予想が、名乗りがあるのですか。

(原田委員)

今の状態だと参加できないので、無いです。

(傍聴者)

そういう心配があるわけですね。



(原田委員)

心配というよりは、積極的に女性に参加していただきたいので、県民の半分は女性ですからね。女性の方にも参加してもらうためにケアをしていこうということです。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。それでは、これで第5回のセミナーについての議題を終了させていただきたいと思います。

井上先生は時間の関係でここで退席されますので、第6回で次回以降というふうに思いましたが、5月まで決まっておりますので、次回の2月11日の運営チーム会議の時に6回以降のことを少し重点的に話をしたいと思いますので、是非考えを持って来ていただきたいと思います。5回まで決まっておりますから、6、7、8回ぐらいですか、あるいは6、7回くらいですね。全体的には、いわゆる安全安心に関すること、それから農業と水とか、一般的には利水と言われるような内容のこと、それから話題になっておりますのは、流水の正常化、そういうことが今のところの議題と言いますか、講演題の候補としては挙がっているように思いますが、ちょっとこの辺のところについては次回の議論及び担当者ですね、誰に担当していただくかについても次回の議論かと思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは、以上で1から6の議題を終了させていただきたいと思います。

その他、各委員から追加すべき内容のことがございますでしょうか。

(小島政策顧問)

2月11日の運営チーム会議は何時からでしたか。

(事務局)

午後からの講座もございますので、できれば10時からお願いしたいというふうに考えてございます。場所は(講義棟)8階のL801教室で運営チーム会議を、公開講座は9階のL901教室を予定しております。

(戸田リーダー)

それはホームページにアップされますね、場所は。部屋名まで。棟が違いますので、棟を間違えると違うところに行ってしまうから、よろしくお願いします。

(事務局)

講義棟の方ですね。

(原田委員)

チラシの件で、申し込み期間をまた教えてください。

(事務局)

調整させていただきます。

(蔵治委員)

その他の議題なんですけど、来年度のこの運営チーム及び公開講座の予算というものは、現在どのような状況にあるかということについて、説明をお願いしたいと。特に、広報については、改善の余地多々ありと思われるんですけども、その辺のような、まだ予算決まってないかもしれませんが、現状報告をしていただけないかと思います。

(事務局)

来年度の県予算は、今、査定中という形になってございますので、今この場でお話できる内容はございません。ご了承願いたいと思います。

(戸田リーダー)

そういう方向で努力をいただいているというふうに考えてよろしいでしょうか。

(事務局)

予算要求については、必要なものについては、私どもで要求させていただいている状況でございます。

(戸田リーダー)

ちょっと歯切れが悪いですが、査定中ということで言いづらいのかもしれませんが。

(原田委員)

新しくちょっとこの部分が変わっているんですけども。ここに三河万歳のかわいいイラストが入ったものに、前回送ったものから。もし、ご入り用でしたら県の方にこのプリントをお願いしますとお伝えいただければ、すごく早くやっていただけます。私は追加ないから大丈夫です。

(戸田リーダー)

それでは、今日は順次フロアもご意見をいただいてきましたので、時間の関係で終了とさせていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。